

全11小中学校をLED化

電気料金の削減は
年間3200万円
今年度末までに全30施設

長門市では、夏休み期間中を利用して市内の全11小中学校の照明をLED化した。先月29日には、向陽小学校で「LED化実証現地説明会」が開かれ、工事前後の消費電力量や照度計の効果測定などがあり、LED照明の効果を確認した。

同市では、カーボンニュートラルの実現に向けた温室効果ガスの排出抑制、高効率な電気料金の削減による行政コストの軽減を目的として、今年度、市内30の公共施設の照明のLED化を計画。そのうち小中学校は、夏休み期間を利用して更新工事を実施した。

向陽小での説明会には、江原市長も参加。工事前の通常の電力量と、設置後の電力量を比較したり、照度計の効果などを測定した。避難所として活用する



〈向陽小でLEDの効果について説明を聞く江原市長〉

県内初の取り組み。江原市長は「その他の施設も利用頻度を確認しながらしっかりとシミュレーションした上でLED化に対応していきたい」と語った。

従来の照明設備の安定器は、令和元年(2019年)には生産

中止となり、故障すると対応できない状態となっていたこともLED化への弾みになった。

全30施設の照明灯数は約1万2500灯、年間削減電力量は約77万kWh、削減率は約70%、電気料金は年間削減額は約3200万円、CO2年間削減量は418tとなる見込み。このうち、小中学校11校では、照明灯数が約8200灯、年間削減電力量は約40万kWh、削減率は約70%、電気料金は年間削減額は約1700万円、CO2年間削減量は217tとなる。

施工は業界大手の「あかりみらい」(本社札幌市)。10年間のリース方式で受注。今年度のリース料は約1750万円。

総事業費は約1億3600万円。5年程度の電気料金の削減額で更新費用を賄える試算という。無線照明制御システムは、2020年度省エネ大賞を受賞したアイリスオーヤマのLICONEX(ラ

イコネックス)を採用した。

向陽小の松本教頭は「2学期の始業式で、体育館では明るさに気づいた子が多かった。これから授業で教科書を読むときなど良い環境での学習ができるのではないかと期待した。」